

令和3年度 学校評価アンケート集計結果分析・考察

1 回収率

表1 令和3年度の全体の回収率

	令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
生徒	96.5%	97.3%	96.3%	99.9%	98.3%
保護者	78.5%	82.9%	85.0%	96.9%	82.9%

表2 学年ごとの回収率

	全体集計			1年			2年			3年		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
生徒	100	72.5	96.3	100	95.0	98.1	100	90.0	97.5	100	72.5	93.1
保護者	100	50.0	78.4	92.5	72.5	82.4	100	69.2	78.0	87.2	50.0	74.6

本校は平成21年4月、仙台商業高等学校と仙台女子商業高等学校が統合、新しく仙台市立仙台商業高等学校として開校し、13年が経過しようとしている。上の表の平成29年度は全学年が8学級に揃った6年目の年度であり、今回の分析結果が現在の「仙台市立仙台商業高等学校」を考えていく上で基本的なものになるとらえて今年度の分析を進めていきたい。

なお、回答総数は、生徒921（男子334、女子587）、保護者749（男子生徒の保護者268、女子生徒の保護者481）である。

2 集計方法

設問内容については、11年前から生徒用のものに、「ボランティア活動への参加」に関する質問項目を追加している。なお、男女共学にとまなう変化についても読み取れるよう配慮した。

生徒用は設問1から18までの項目、保護者用は1から17までの項目に対してA・B・C・D・無回答の順に回答数とその回答率（%）を集計し、さらに100%積み上げ横棒形式のグラフに置き換えて集計表示した。

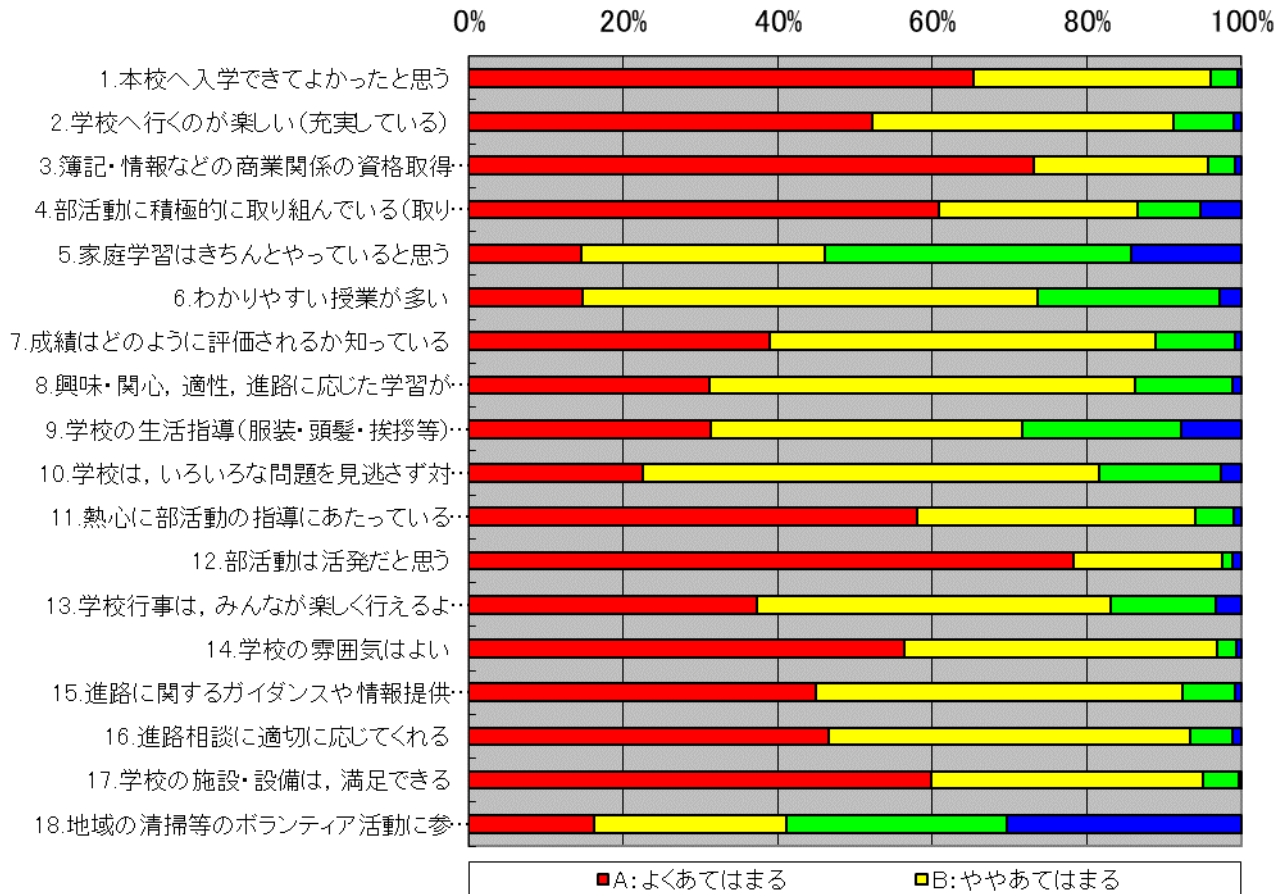
設問の最後には自由記述欄を設けて、設問項目に対する意見や項目以外に対する提言及び感想を記入してもらっている。

- (1) 横棒表示は生徒毎、保護者毎、教員毎に作成。
- (2) 回答内容と回答数は全体、学年別、学科別に作成。
- (3) 自由記述欄は、記述された文言を忠実に羅列集計。

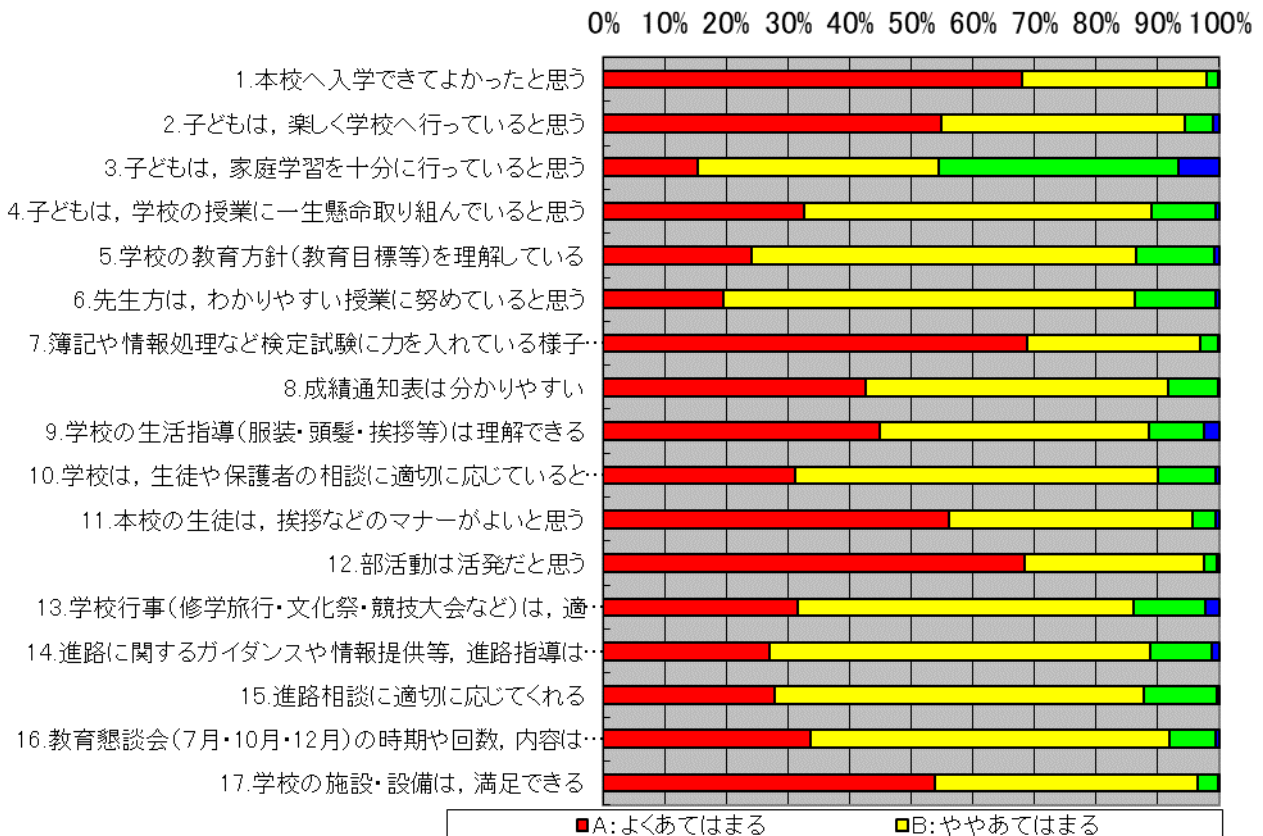
3 公表範囲

- (1) 仙台市教育委員会に概要を報告
- (2) 保護者に概要を配布
- (3) 学校評議委員会に概要を提示
- (4) 学校のホームページに概要を掲載・公表

令和3年度 学校評価アンケート（生徒対象）



令和3年度 学校評価アンケート（保護者対象）



【分析・考察】

1 学校に対する全体的な印象

2 ページの図を昨年度のものと比較すると、一昨年は生徒・保護者とも「よくあてはまる」「ややあてはまる」がともに若干減少したが、昨年度はともに増加した。今年度、生徒はさらに増加し好結果だったと言える。が、保護者は減少した。以上のことから本校の新しい教育がますます定着してきていることを物語っているものの、今年度もコロナウイルス感染症のため、保護者に学校での様々な行事に参加していただけないことが、影響していると推察される。

「本校へ入学できてよかった」との回答が全体では 96%を超え、1年生全体が 97.8%、2年生が 93.8%、3年生が 96.3%でどの学年も好ましい評価となっている。ほとんどの生徒が満足感を感じながら登校してきている。このことから、本校の地道な教育活動が効果的に行われてきた結果といえる。

保護者からは昨年度同様 98%以上が入学できてよかったという回答を得ている。また、「学校へ行くのが楽しい（充実している）」とする項目に関しては昨年度までと比較すると、幾分増加傾向が見られ、生徒は1年生が最も高く（93.6%）、3年生（90.9%）、2年生（89.0%）となっているが、保護者は学年に関係なく 90%を超えている。以下に目的意識、学習意欲、生活意識、進路意識に項目を分けて分析するが、これらの割合が高いことから、第一段階として生徒に対しての学校としての教育活動が効果的に行い易いということを暗示している。昨年度からの経験を活かし、コロナウイルス感染症対策を講じながら、あらゆる教育活動において工夫をし、条件付きではあるが諸行事を行うことができた。

2 目的意識

「簿記・情報などの商業関係の資格取得を目指したい（目指した）」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 95.8%（昨年度より+0.6 ポイント）となった。内訳は、1年生が 97.1%（昨年度より-0.7 ポイント）、2年生が 94.9%（昨年度より-0.4 ポイント）、3年生が 95.3%（昨年度より+2.7 ポイント）となった。どの学年も 90%を超える結果となった。1年生・2年生は、「在学中により多くの資格を取り、進路等に活かしてゆく。」という学校の目標を理解しながらも、積極的に取り組んでいく意識が薄いように感じられるので、向上心を持ち資格取得ができるように指導をしていく必要がある。その反面、現3年生は、昨年の2年次の時も「資格を取っておきたい。」という意識が高かった。そのことが、いま現在も継続していると考えられる。その結果、本校商業科の掲げている「全商1級3種目以上の合格者を100名以上」という数値目標を現時点で達成をし、200名以上を輩出する勢いに繋がっている。他学年にも波及効果を生むように資格取得の必要性と取得に対する意欲の喚起に努めていかなければならないと考える。

「部活動に積極的に取り組んでいる（取り組んだ）」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 86.5%（昨年度より-0.9 ポイント）となった。部活動は、学校を活気づける一つの要因になると考えられるので、コロナ禍という厳しい現状をかながみても、数値が減少したことは残念なことである。内訳を見てみると、1年生が 89.2%（昨年度より+0.4 ポイント）、2年生が 82.5%（昨年度より-5.3 ポイント）、3年生が 87.9%（昨年度より+2.1 ポイント）となり、学年間での差が生じる結果となった。コロナ禍が昨年度から部活動の取り組みにいまだに大きく影響を及ぼしていることを感じた。

保護者において、「簿記や情報処理などの検定試験に力を入れている様子がよく分かる。」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 96.8%（昨年度より-0.2 ポイント）となった。内訳は、1 年生が 95.8%（昨年度より+1.9 ポイント）、2 年生が 96.4%（昨年度より-0.5 ポイント）、3 年生が 98.3%（昨年度より+2.3 ポイント）となった。どの学年も、95%以上を超える結果となった。その中で、現 3 年生は、昨年の 2 年次の時と同様に生徒・保護者とも高い数値が残され、同じような意識であることが示された。

「部活動は活発だと思う」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 97.5%（昨年度-0.6 ポイント）になった。内訳は、1 年生が 96.9%（昨年度より-0.8 ポイント）、2 年生が 96.8%（昨年度より-2.4 ポイント）、3 年生が 98.7%（昨年度より-0.2 ポイント）となった。この項目も 95%以上を超える結果とはなかったが、各学年でポイントが減少したことは残念である。生徒・保護者とも「商業関係の資格取得」に関しては、学校が目指す方向性を理解したうえで同じ方向に向かっていると考えられた。しかし、「部活動にも積極的に取り組んでいく」ということに関しては、学校の方向性とズレを感じさせられる結果となった。

今後は、厳しいコロナ禍の中ではあるが、学校の方針を明確に打ち出しながら、魅力ある学校生活の一端となるように工夫を凝らし情報発信をしていく必要があると考える。

3 学習意欲

「家庭学習はきちんとやっている」の項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 46.0%（昨年度から-1.4 ポイント）となった。内訳は 1 年生が 47.8%、2 年生が 41.4%、3 年生が 49.0%（昨年度は 1 年生が 47.8%、2 年生が 47.1%、3 年生が 47.1%）となった。1 年生は増減なく、3 年生は 1.9 ポイントの上昇となったが、2 年生は、昨年度より 5.7 ポイントの下降となった。みやぎ学力状況調査の結果（1・2 年生）においても、家庭学習についての回答は、「宿題・課題のあるときと定期考査前」もしくは、「定期考査前」の回答が上位を占めた。また、家庭学習をする上での悩みについての回答は、「家庭学習に集中できない」、「家庭学習と部活動の両立が難しい」であり、日常生活の中で、「部活動と家庭学習の両立を目指しているが家庭学習に集中できない生徒」が多く存在することが浮き彫りになっている。

保護者において、「子どもは家庭学習を十分に行っている」の項目に「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 54.5%（昨年度より+4.6 ポイント）となった。内訳は、1 年生が 55.0%、2 年生が 50.2%、3 年生が 58.4%（昨年度は 1 年生が 44.4%、2 年生が 56.5%、3 年生が 56.4%）となった。生徒と保護者の間にポイントの多少のひらきが見られたが、学年の分析傾向は同じようなものとなった。保護者からの目でみて、2 年生男子の 37.8%という結果は、学校側も注意すべきであり、何らかの対策が必要である。目的意識での「資格取得を目指している・目指した」との回答を密接につながり、どの学年においても資格取得を目指すには、家庭学習が不可欠であると同時に、学習習慣や基礎学力向上が必要である。そのためには、日々の授業や朝自習に対する姿勢が、学習の積み重ねが資格取得につながる。ひいてはこのことが、大学進学や就職といった進路実現につながることを生徒に自覚させるとともに教員も教科で工夫を重ね、自己学習のできる生徒を家庭との協力をえて、指導していかなければならない。

「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 73.6%（昨年度より+1.7 ポイント）となった。1 年生 73.9%、2 年生

69.9%、3年生 77.2%（昨年度は1年生 75.9%、2年生 64.4%、3年生 75.4%）となった。1年生は、昨年度より-2.0ポイント、2年生は+5.5ポイント、3年生は+1.8ポイントとなった。また、みやぎ学力状況調査の結果分析より、「ほとんどの授業が良く理解できる」「理解できる授業の方が多い」と回答したものは、昨年度の1年生から今年度の2年生にかけては、74.0%→54.7%（昨年度より-19.3ポイント）となった。改善が見られる傾向があるものの、学年進行でより学習が高度化していく中、授業が理解できず、家庭学習を含めた自己学習の意欲が低下している要因となっているのではないかと推察する。特に、数学や商業科目において、生徒が理解しにくくなっていることが予想されるので教員側が実態をよく理解し、授業の工夫や学習資料の充実をしていく必要があると考える。教員側も現職教育である「校内公開研究授業」の実施や、わかりやすい授業を目標とした教材研究等を通じ、今後も授業力向上を図り、生徒の学力向上に努めていかなければならないと考える。

保護者において、「わかりやすい授業が多い」との項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した割合は、全体で 86.4%（昨年度より+3.9ポイント）となった。1年生 86.3%、2年生 80.3%、3年生 92.9%（昨年度は1年生 81.0%、2年生 82.0%、3年生 85.0%）となった。残念ながら、どの学年においても生徒と保護者の差が大きい項目となった。上記に示したように学校公開や情報発信を適時に行うとともに更なる教員側の研鑽が必要となってきている。

「成績はどのように評価されるか知っている」の項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒の割合は、全体で 88.9%（昨年度より-1.2ポイント）となった。学年別では1年生 85.7%、2年生 88.7%、3年生 92.6%（昨年度は1年生 89.6%、2年生 90.1%、3年生 90.6%）となった。3年生は、学習内容の把握と観点別評価において、考査結果だけでなく、日々の授業の積み重ねが評価につながっていることを生徒が実感したものと推察できる。1・2年生は、年度初めの最初の授業において、教科担任がシラバスを使って、学習内容や評価方法を説明したものの、まだ十分に理解していない生徒もいると推察される。今後もさらなる学習の評価について、観点別評価を深化させ、定着を図りたい。

4 生活意識

学校生活に関わる生徒への質問として、質問項目 1、2、4、9、10、11、12、13、14、17、18、が挙げられ、ほとんどが 90%以上の項目となっている。その中で、生徒質問項目 2【学校へ行くのが楽しい（充実している）】91.2%（前年比+2.2ポイント）に増加している。保護者も【子どもは、楽しく学校へ行っていると思う】94.4%（+1ポイント）となっている。生徒質問項目 18【地域の清掃等のボランティア活動に参加している】41.2%（-10.6ポイント）となっているが、コロナ禍において、参加する機会がなかったのが要因である。次年度以降は、感染状況をみながら参加を促していきたい。

上昇した項目の中で生徒質問項目 1【本校へ入学できてよかったと思う】96.0%（+1.4ポイント）となっているが、生徒質問項目 2（上述）とは 4.8ポイントの差が生じている。その要因を考えていく必要がある。

1つ目は、生徒質問項目 10【学校は、いろいろな問題を見逃さず対応してくれる】81.7%（+0.4ポイント）となっており、前年よりも増えてはいるが「何らかの」問題をかかえて言い出せない生徒が存在していると思われる。保護者の【学校は、生徒や保護者の相談に適切に応じていると思う】90.1%（+2.9ポイント）となっているが、さらなる生徒との関わり合いの中から心の

「悩み」を吸い上げる必要があるようだ。

2つ目は、生徒質問項目 11【熱心に部活動の指導にあたっている先生が多い】94.0% (-0.6ポイント)となっている。部活動の活性化を目標にしている中で、生徒からこのような評価になっているのは改善しなければならない。生徒質問項目 12【部活動は活発だと思う】97.5% (-0.7ポイント)で、生徒質問項目 4【部活動に積極的に取り組んでいる(取り組んだ)】87.4% (-0.1ポイント)となっている。コロナ禍の中で、部活動の中断などもあり、生徒たちの部活動に対する意識の低下が表れている。本校校訓の「自立・友愛・創造」にもあるように、自ら考え行動する姿勢を身につけさせる必要があるのではないかと。

そのほかの項目について生徒質問項目 13【学校行事は、みんなが楽しく行えるよう工夫してある】83.1% (-9.7ポイント)と、今年度の行事についてもコロナ禍においても工夫を強いられたが、生徒の意見も反映させるなど、もう少しできることはあったのではないと思う。保護者も、【学校行事(修学旅行・文化祭・競技大会など)は、適当であると思う】86.1% (-2.2ポイント)となっており、来年度に向けて行事の企画から見直しを図る必要があると考える。

生徒質問項目 9【学校の生活指導(服装・頭髪・挨拶等)は理解できる】71.7% (-7.4ポイント)で、保護者【学校の生活指導(服装・頭髪・挨拶等)は理解できる】88.7% (-1.7ポイント)となっている。生徒総会でも意見として出ている髪型についてなど、時代に合わせた校則等の見直しも必要であると感じる。また、今まで以上に保護者・家庭との連携を大切にしていきたい。

最後に、保護者【本校の生徒は、挨拶などのマナーがよいと思う】95.6% (+6ポイント)となっている。本校生の「売り」であるこの項目について、保護者からこのような結果となったのは良いが、実情は徹底されていない部分もあるため、生徒のみならず我々教職員も今後の指導を考える必要がある。

5 進路意識

進路関係項目は「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の割合が、生徒は全項目 92%を超える結果を示している。しかし、保護者の割合は 88%程度になっている。しかし、この結果は前年度よりも 5%ほど上回っており、コロナ禍における保護者への進路指導に関する進路行事をできるだけ実施してきた結果といえます。しかしながら今後も保護者の数値が生徒の数値に近づくように工夫していきたいと考えています。

それ以外の今年度の調査結果については、生徒への 3年生の進路達成状況、並びにこれまでの計画的な進路指導計画にもとづいた全教職員によるきめ細やかな進路指導の成果であると考えます。

今年度は昨年行わなかった 1・2年生は保護者の皆様に進路ガイダンスへの参加案内を生徒とは別の時程ではありますがご案内いたしました。コロナ禍の中ではありますが多くの保護者の方々に参加していただくことができました。また、3年生は進路ガイダンスを動画配信でおこない多くの保護者の方々に視聴して頂きました。

今後も生徒の高校卒業後の進路実現へ向けて、1年生の早い段階から進路意識の高揚を図るための具体的な指導に取り組むことを目標にし、進路ガイダンスや進路情報の的確な提示、そして、生徒の興味、関心を踏まえ、生徒自身の職業適性を把握しながら自己理解を図り、それぞれの進路について真剣に考え、行動できるような進路指導をすすめていきたい。

6 男女差の大きい項目について

生徒の回答で、男女間で最も大きな開きが見られた項目は、質問項目9「学校の生活指導は理解できる」で男子 65.2%、女子 57.0%であった。この項目については3年生では男女間にほとんど差がない（男子 74.5%、女子 75.0%）が、2年生では男女間に大きな差（男子 57.0%、女子 78.4%）があり、1年生でも男女間の差（男子 65.2%、女子 72.4%）は存在している。この項目については、保護者の回答を見ると男女間の差は少なく（男子 85.8%、女子 90.2%）、学年間でも大きなバラツキは見られない。特に2年生についてはコロナの関係で、6月より実質的な学校生活が始まり、その後の学校生活にも多くの制約があったことが原因として考えられ、1年生では、ある程度学校生活の状況が安定してきたことが男女間の差の縮小につながったと考えられるが、男女の差の発生については確たる原因を見出すことができなかった。

保護者の回答の中で注目されるは、例年取り上げられる質問項目4「子どもは、家庭学習を十分に行っていると思う」で、今年度は男子 45.9%、女子 59.3%で男女間の差は 13.4%で、これは昨年度（19.3%）一昨年度（17.5%）と比べて格差が縮小している。学年ごとに見ると2年生では約 20%（男子 37.8%、女子 57.2%）の差が見られるが、1年生では昨年度（男女差 21.2%）と比較すると大幅に差が縮小（男女差 8.6%）し、3年生では男女ともに上昇（男子 50.4→50.6% 女子 56.0→62.6%）が見られる。2年生では上記の質問項目で大きな男女差が見られる項目があったが、他学年と対比するとコロナの流行に起因する一時的な傾向とも考えられるが、今後、注視していかなければならないと思われる。

7 その他

全体を通してみると、生徒・保護者共に回収率が学年進行で下がる傾向がある。特に保護者の回収率が顕著で、最低回収率が50%のクラス（3年生）もあった。

卒業後の進路決定に際して、生徒・保護者・学校との関わり方が濃くなるはずであり、また、卒業後も「部活」や「担任」等に会いに来る生徒が多く存在する。それにもかかわらず、このような傾向にあることは、学校への関心や意識が薄れていっているのか、本調査に対しての期待感の薄れがあるのか、または、それ以外に理由があるのか定かではないが、今後の課題と言えそうである。

保護者および生徒からの自由記述欄では、多数の建設的なご意見やご要望等をいただいた。今回のアンケートの分析結果を活用するとともに、さらに充実した学校生活の構築に向け、教職員一同努力してまいりたい。今後も本校の更なる発展のために、忌憚のないご意見をいただきたい。